

『ひゅーまん らいつ』第7号 (2021.9.15)

～人権とSDGs③-持続可能な開発のための教育（ESD）～

第5号で、SDGsの理念である『誰一人取り残さない』とは「すべての人々の人権を実現」することであり、人権の確立が念頭にない取り組みは、SDGsのためのものとは言えない、と書きました。第6号でSDGsウォッシュについて書きました。人権の確立が念頭にない取り組みはSDGsウォッシュにあたることになります。

今号では、SDGsの達成のために必要な持続可能な開発のための教育（以下、ESD）について紹介していきます。

1. ESDとは

ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来のわたり豊かな生活を維持・創造できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。

ESDは、SDGsが言われるずいぶん前に、日本が提唱して取り組んでいるものです。ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で我が国が提唱した考え方であり、同年の第57回国連総会で採択された国際枠組み「国連持続可能な開発のための教育の10年」（2005-2014年）や2013年の第37回ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」（2015-2019年）に基づき、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれてきました。

ESDはSDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置付けられました。一方で、ESDは、ターゲットの1つとして位置付けられているだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが第74回国連総会において確認されています。持続可能な社会の創り手を育成するESDは、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。

2. 持続可能な社会づくりの構成概念

持続可能な社会をつかっていくために必要なものの見方・考え方で、教える側がこの考え方を身につけておくこと、そして生徒に持たせることが必要ということです。

- ① 多様性（いろいろある）
- ② 相互性（関わりあっている）
- ③ 有限性（限りがある）
- ④ 公平性（一人一人大切に）
- ⑤ 連携性（力合わせて）
- ⑥ 責任制（責任を持って）



3. ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

持続可能な社会をつかっていくために、生徒が持つこれらの力を大切にし、より培っていくべき力や態度です。

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する力
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

2. と 3. について <https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> を参照

4. SDGs達成のために必要な見方・考え方

(1) バックキャストイング

「現在の延長線上に想定される未来の姿」を目標に、現在もっている資源から考えて適度なチャレンジを設定することをフォアキャストイングと言います。それに対し、「現在の延長線上に想定される未来の姿」を想定して、どうしても必要な目標を設定し（多くは達成不可能と思えるレベル）、やり方を後からなんとかして考えることを **バックキャストイング**と言います。

よく「SDGsの達成は土台無理」などという言説を目にしますが、それはフォアキャストイング、つまり前例にとらわれた考え方に終始しているのかもしれませんが。SDGsの達成のためには、前例にない取り組み（破壊的創造）も必要になってきます。

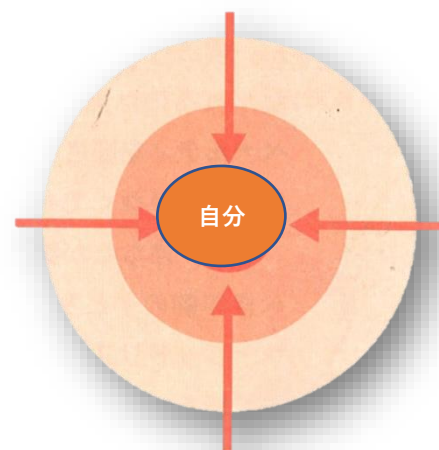
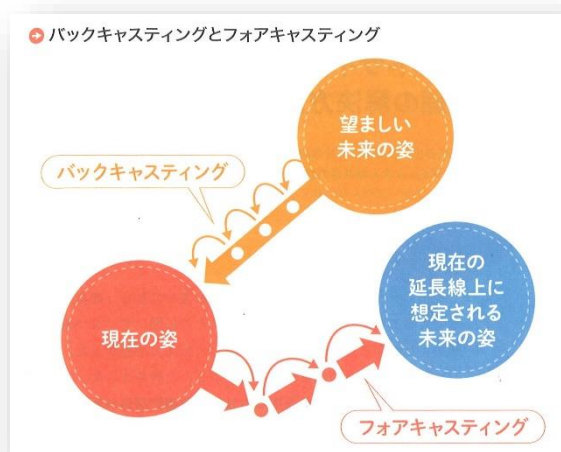
(2) アウトサイド・イン

例えば、ある人との打ち合わせの後、その人が打ち合わせ通りに事を進めておらず、その人が「そんな話は聞いていません」と言ったとき、「その人は私の言うことをよく聞いていなかった」と考えることをインサイド・アウトと言い、「自分の伝え方が悪かったのかな。次は伝わるように言い方を変えてみよう」と考えることを **アウトサイド・イン**と言います。

SDGsは世界共通の目標ではありますが、それを目指す世界の人々は、社会的・経済的状況や考え方も多種多様です。自分だけの視点ではなく、他者、そして社会は自分に何を求めているのだろうか、という視点で考えることが重要と言われます。

バックキャストイングとアウトサイド・インの図は

バウンド『図解即戦力 [SDGs] の考え方と取組がこれ1冊でしっかりわかる教科書』(技術評論社)より



新しい学習指導要領は、SDGsの達成、そしてESDの実践を求めているといわれます。また、COVID-19禍のような厳しい状況下においても学びの手を止めない工夫が求められ、GIGAスクール構想による一人一台パソコンが現実のものとなりました。

これからは生徒の人権保障を前提に、SDGsからバックキャストイングで現在をとらえ、アウトサイド・インで思考しながら、与えられた条件の下、授業方法や内容を創っていくことが求められます。不易の部分を見極めつつ、果敢に流行を追うことも必要になっていくかもしれません。

ご意見・ご感想をお寄せください。 hiroi4678@news.ed.jp